



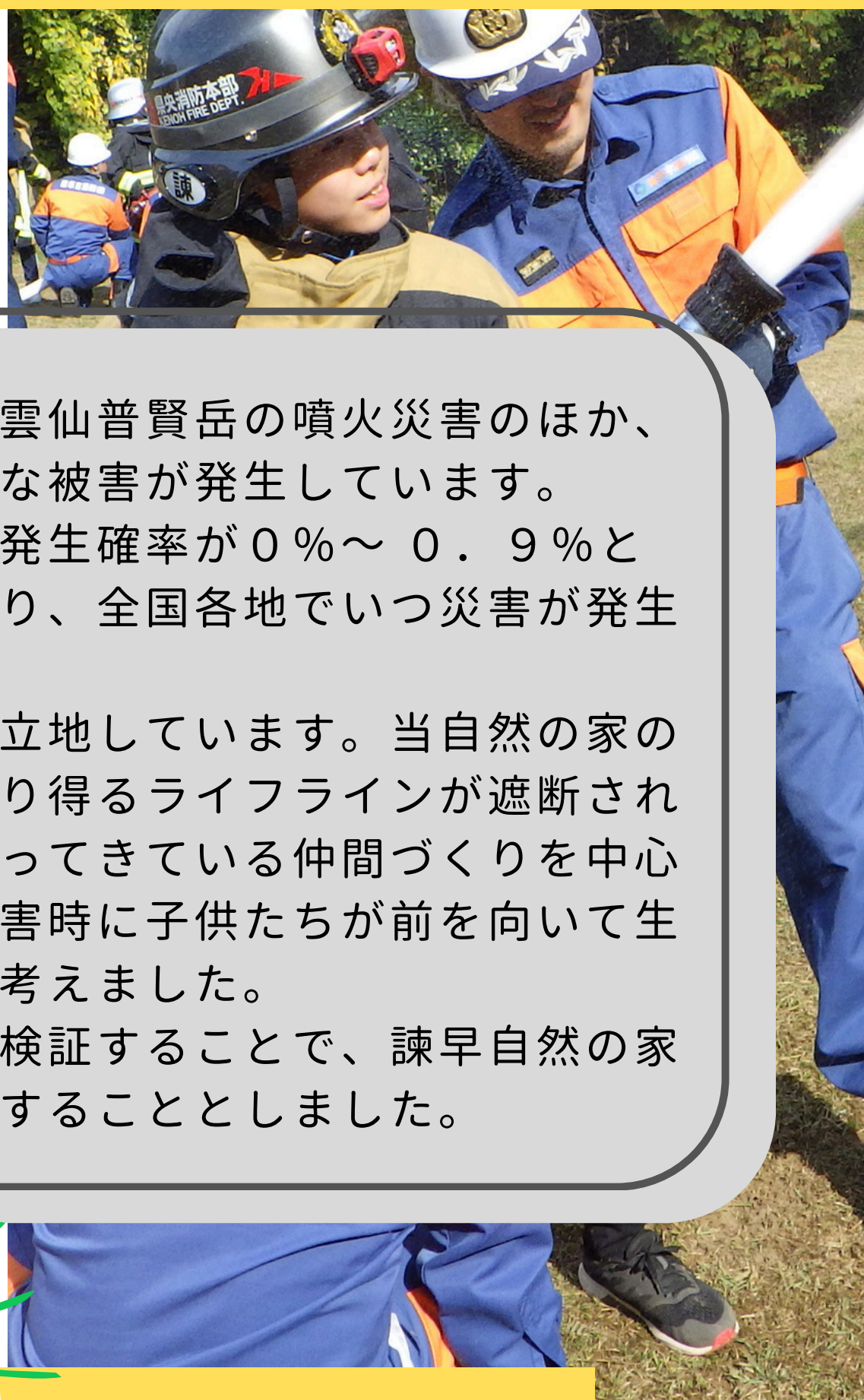
防災・減災を自分から学び、考え続ける青少年を育成する

いさはや 防災教育

プログラム

いつやってくるか分からないその時にそなえて...

なぜ自然の家で防災教育??



諫早自然の家が立地する長崎県では、全国的に注目を集めた雲仙普賢岳の噴火災害のほか、さかのぼれば、諫早大水害、長崎大水害など、災害による大きな被害が発生しています。

また、平成30年に発生した熊本地震が、30年以内の地震発生確率が0%～0.9%とされていた断層によって引き起こされたことから分かります。全国各地でいつ災害が発生してもおかしくない状況にあるといえます。

当自然の家は、多良山系の中腹に位置し、自然豊かな環境に立地しています。当自然の家の活動施設であるキャンプ村は周囲を森に囲まれ、災害時に起こり得るライフラインが遮断された状況を再現することが可能です。また、私たちがこれまで行ってきた仲間づくりを中心としたコミュニケーション力向上プログラムのノウハウは、災害時に子供たちが前を向いて生き抜いていく力を身に付ける一つの手段になるのではないかと考えました。

そこで、防災・減災教育につながる活動を行い、その効果を検証することで、諫早自然の家を利用する団体へ提供できる防災・減災教育プログラムを開発することとしました。

自然の家HRTキャンプ (ハイパーレスキューチーム)

日程：①令和4年9月17日(土)～18日(日)【※台風接近により17日の日帰り実施】
②令和5年11月3日(金・祝)～5日(日)【2泊3日】

対象：小学校4～6年生 ①16名、②23名

会場：国立諫早青少年自然の家(主にキャンプ村)

目標：

- ・レスキューチームでの活動を通して、共助の精神を養い、防災減災に興味関心を持つ。
- ・避難所生活の模擬体験を通して、災害時でも前向きに力強く生活できる力を身に付ける。
- ・災害へ対応するためには、普段どのような備えが必要かについて、自分なりの考えを持つ。
- ・災害時や避難所生活に起こる不測の事態に対して、戸惑うことなくその状況に応じて自分自身で判断し行動できる力を身に付ける。
- ・他の参加者と協力して課題に立ち向かい、困難な状況を乗り越える力を身に付ける。

<令和5年度の様子>

仲間を助ける力を
身に付けるぞ！



自然の家HRTキャンプのプログラムをもとに、
当施設を利用する皆さんに実施していただける防災プログラムを作成しました！

いさはや防災教育プログラム活動一覧



【活動】
防災クイズラリー

1

【内容】
クイズを解きながら、防
災減災に関する正しい知
識や行動を学ぼう。



【活動】
消火訓練
(水消火器)

2

【内容】
地震の影響による火災発
生時に、初期消火ができ
る技術を身に付けよう。



【活動】
応急手当訓練

3

【内容】
災害時に怪我をした時の
手当について理解し、処
置ができるようになろ
う。



【活動】
災害時に役立つ
ロープワーク

4

【内容】
ロープの様々な活用方法
を学ぼう。



【活動】
あなたの防災
バックの中身は？

5

【内容】
防災バックに入れるもの
を自分たちなりに考えよ
う。



【活動】
防災野外炊事
(パッククッキング)

6

【内容】
被災時にも、少ない水と
火で調理できることを体
験しよう。



【活動】
防災食体験

7

【内容】
防災食を実際に食べるこ
とで、平常時との違いや
食の大切さを理解しよ
う。



【活動】
避難所体験

8

【内容】
電気、水道、ガスが使用
できない状況で宿泊して
みよう。



子どもたちに身に付けてほしい防災力

文部科学省では、「『生きる力』をはぐくむ学校での安全教育」（2019）の中で、防災を含む安全教育の目標を「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」の3つの視点からまとめています。

また、現行の小学校学習指導要領解説総則編には、小学校で教える防災教育の内容が示されています。

これらを参考に、小学生に身に付けてもらいたい防災に関する力のアンケート用紙（27項目）を作成し、令和5年度のキャンプで調査を行いました。

防災力は本当に身に付いたのか??

分析にあたっては、各質問項目を「1.あてはまる」から「4.あてはまらない」の4件法で点数化し、対応のあるt検定を行いました。

その結果、「①火災が起きた時、どのような場所に逃げればよいか知っている。」（ $t(21)=4.465, p<.01, d=.870$ ）、「②避難所で、お互いに助け合うことができる。」（ $t(21)=2.881, p<.01, d=.740$ ）、「⑤けがをした時、簡単な手当をすることができる。」

（ $t(21)=3.215, p<.01, d=.931$ ）などの7項目に1%水準で有意差が認められ、大～中程度の効果量も認められました。以上のことから、本キャンプの体験を通じて参加者の防災力が高まったことが分かりました。



（分析には清水（2016）が作成したフリーの統計分析ソフトHADを使用しました。）

防災・減災に関するアンケート

- ①火災が起きた時、どのような場所に逃げればよいか知っている。
- ②火災が起きた時、どのような道や通路を動けばよいか知っている。
- ③火災が起きた時、どのような危険があるのか知っている。
- ④火災が起きた時、周りの人を安全な場所へ案内することができる。
- ⑤火災が起きた時、自分の身を守る行動ができる。
- ⑥地震が起きた時、どのような危険があるのか知っている。
- ⑦地震が起きた後、津波や土砂くずれが起きるかもしれないことを知っている。
- ⑧いつ地震がきても身を守れるように心の準備ができています。
- ⑨地震や津波が起きた時、必要な情報を集めることができる。
- ⑩地震や津波が起きた時、集めた情報から何をすればよいか自分で決めることができる。
- ⑪津波が起きそうな時は、自分より年下の子どもに避難をすすめることができる。
- ⑫災害が起きそうな時に発表される、〇〇注意報や〇〇警報などの違いを分かっている。
- ⑬台風や大雨の時、水があふれたり、木が倒れるなど、道路の様子が変わることを知っている。
- ⑭台風や大雨の時、土砂くずれが起きるかもしれないことを知っている。
- ⑮台風や大雨の時、自分の身を守る行動ができる。
- ⑯雷が鳴っている時、雷から身を守る行動ができる。
- ⑰災害が起きた時の避難所の役割について知っている。
- ⑱避難所での生活の様子や過ごし方について知っている。
- ⑲災害が起こった時に避難する場所について、家族と話し合っている。
- ⑳避難所での仕事や役割の中から、自分でも手伝えそうなことを考えることができる。
- ㉑避難所で、お互いに助け合うことができる。
- ㉒防災訓練はまじめに取り組まないと意味がないと思っている。
- ㉓防災訓練を行う必要性や大切さについて説明できる。
- ㉔地域で防災活動があれば積極的に参加したいと思っている。
- ㉕けがをした時、簡単な手当をすることができる。
- ㉖けがをしそうな物や状態に気づくことができる。
- ㉗自分の周りにあるけがをしそうなものや状態を減らすことができる。

※あてはまる、少しあてはまる、あまりあてはまらない、あてはまらないの4件法で回答

※朱書きの項目は1%水準で有意差あり

子どもたちの声

水はとても大切だと思いました。また、災害時は人と協力することが大事だと思いました。



避難所で実際に出そうなご飯を食べたり、水が出ないときのトイレの仕方を知ったりなど、沢山学べてとても楽しかった！

今当たり前のようなことが災害時は当たり前じゃないと気付くことができました。今後、防災バッグを見直そうと思います。



自然の家 × 防災教育...

実際に被災をした時は、非日常の環境で過ごすことになりませんが被害が大きく長期化すればするほど、その非日常の生活が、日常になつていきます。

そのときに感じる不便さ、ストレス、困り感は、実際に体験しないと理解しにくいものです。

自然の家では、再現することが難しいそのような非日常の環境を疑似体験することが出来ます。

電気がこない、水が出ない、大部屋で一緒に寝る。そんな体験を重ねることで、今の生活を顧みて当たり前のことに感謝する気持ちが芽生えるようです。

「いさはや防災教育プログラム」では、防災における様々な知識やスキルを獲得することで、「災害」に備えるのはもちろんのこと「日々の生活の見直し」など、子供たちのウェルビーイングの向上にもつながるものと思っています。

私たちは、本プログラムをより多くの利用者に届けられるよう、これから取組を続けていきます。

参考文献

文部科学省 (2019) 「『生きる力』をはぐくむ学校での安全教育」

文部科学省 (2017) 「小学校学習指導要領 (平成29年告示) 解説総則編」

清水裕士 (2016) フリーの統計分析ソフトHAD: 機能の紹介と統計学習・教育, 研究実践における利用方法の提案 メディア・情報・コミュニケーション研究, 1. 59-73



令和 7 年 3 月 作成



作成：国立諫早青少年自然の家
協力：青少年教育研究センター 客員研究員 青木康太郎